

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																
北海道どうぶつ・医療専門学校		1989年12月28日	末吉 良任		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2811																
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																
学校法人北海道安達学園		1989年11月28日	安達 保敏		〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士															
商業実務	商業実務専門課程	ペット学科 トリマー専攻			平成6年文部科学省告示第八十四号	-															
学科の目的	学内犬の飼育管理や様々な取り組みを通じて、「人間とペットがしあわせに共生できる社会」の実現に貢献できるペットの専門家を育成する。																				
認定年月日	2014年3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
	2年		1848時間	692時間	66時間	1090時間	0時間	0時間													
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の 内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
120人の内数		41人	0人	6人	4人	10人															
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末考査素点・平常点・ 提出物類																
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで			卒業・進級 条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導、及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 業界イベントの参加・協力、ボランティア活動への参加  ■サークル活動: 無																
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) ペットハウス テンテン、ペットランド、いなば動物病院他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																
	■就職指導内容 社会実務の授業や個別面談などで、就職に対する意識づけ、 業界就職に対する正しい認識を指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士</td> <td>③</td> <td>17</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>飼育係実務者検定</td> <td>③</td> <td>17</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>動物愛護士検定</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士	③	17	14	飼育係実務者検定	③	17	15	動物愛護士検定	③
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																		
愛玩動物飼養管理士	③	17	14																		
飼育係実務者検定	③	17	15																		
動物愛護士検定	③	2	2																		
中途退学の 現状		■中途退学者 2名		■中退率 7.1%		平成29年5月1日時点において、在学者28名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者26名(平成30年3月31日卒業生を含む)															
経済的支援 制度		■中途退学の主な理由 進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、授業料の分納制度等 ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																			
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																			
当該学科の ホームページ URL		<a href="https://www.ssb.ac.jp/pet/course/torimmer/">https://www.ssb.ac.jp/pet/course/torimmer/</a>																			

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

## 2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

## 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット学科教育内容: 学内犬飼育管理から学ぶ、飼育の基本と人と動物との絆、犬とのコミュニケーション、社会貢献活動幅広い知識と、技術  
上記の教育内容を企業との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映する為、企業等の意見を十分に活かし改善・工夫を計っていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会では①就職実績など教育成果、②カリキュラム、③教育環境・教材など、について審議。教育効果検証の場として位置付け、社会に貢献できる人材を育成していくための継続的改善について意見交換を行う。教育編成委員会の審議結果を基に、学校担当が中心となってカリキュラムなどの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	①
森 浩子	藤野ペット霊園 緑の杜 営業部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	③
吉住 憲広	北海道どうぶつ・医療専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
安達 敏亮	北海道どうぶつ・医療専門学校	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数2回 毎年6月、12月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月22日 17:00～18:00
- 第2回 平成26年2月7日 17:00～18:00
- 第3回 平成26年10月3日 14:00～15:00
- 第4回 平成27年2月26日 13:00～14:00
- 第5回 平成27年11月6日 13:00～14:00
- 第6回 平成28年6月17日 13:00～14:00
- 第7回 平成29年6月10日 13:30～14:00
- 第8回 平成29年12月12日 13:30～14:00
- 第9回 平成30年6月28日 13:30～14:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

飼育管理実習などについて。増加傾向にある学生数、及びさらなる学習環境の向上を目指し、施設の充実と学内動物の飼育数を増やす必要があるのではないか、との意見。それを受け施設のリニューアルを進め、順次飼育動物を増やすと同時に飼育環境のさらなる改善を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ(企業研修)や企業からの特別授業を通し、「現場の実践力と飼育管理力を備え、人と動物との絆を高める社会人の育成」に取り組んでいく

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

専門分野の企業・業界団体などから指導講師が参画して①教材選定・科目実施方法・評価方法の設計、②授業の実施、③学校と連携して学生の評価、を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗れてアドバイスについて学ぶ	テイネ警察犬訓練所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員規則の教員研修に基づき、教職員の業務に係わる必要な知識、技能、資質などの向上を図るため、年2回以上教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される研修を受ける機会を学園として認め、奨励する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・東京研修1の実施(IFC東京国際主催 ドッグショー視察研修、ペットサロンの企業を視察研修)
- ・東京研修2の実施(製菓、調理、ペットなどの専門学校を視察研修)
- ・2018.6.10 震災とペット救護活動(ゾエティス・ジャパン株式会社主催)に参加
- ・2018.8.7 基礎学力向上で退学者を減少させる(ベネッセグループ主催)に参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る H29.5月
- ・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る H29.5月
- ・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年3回) H29.7月、12月、H30.1月、7月

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・札幌市小動物獣医師会主催「心のバリアフリー・輝いて生きる」 H30.10月
- ・北海道ペット事業協同組合「愛され顔の作り方、ペイジング講習/マイクロチップデモ」 H30.10月

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修H30.12月
- ・発達障害のある子を支えるおとなたち(北海道主催)H30.10月

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか
(4) 学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか

(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくこと了承。  
職業実践専門課程が一般に認知されていないのではないかと意見が挙がった。職業実践専門課程が広く一般に浸透するよう学校として実績を上げ、情報発信していくこととした。  
ペット学科については、ボランティア活動を通じ、犬とのコミュニケーション、社会貢献活動を強化して行くことの意味を反映して行く。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社さきだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
原 大介	ユアンワークス 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:平成30年11月中)

[https://www.ssb.ac.jp/pet/wp-content/uploads/2016/09/P2015\\_SSB\\_20160301.pdf](https://www.ssb.ac.jp/pet/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SSB_20160301.pdf)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供方法:ホームページ <https://www.ssb.ac.jp/pet/information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1前	34	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー&接遇マナーを学ぶ	1前	34	2	●	▲		●		●		
●			社会実務	学内での生活指導の他に、社会人として必要なルールやマナーと就職活動について学ぶ	1前	34	2			●	●		●		
●			犬種学	犬猫の進化や生態、犬猫種や飼育の基礎を学ぶ	1前	34	2	●			●			●	
●			トリミング実習	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	1前	272	16			●	●		●	●	
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	1前	34	2	●			●		●		
●			しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗れてアドバイスについて学ぶ	1前	34	2			●	●			●	●
合計			7 科目		476単位時間( 28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1後	32	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー&接遇マナーを学ぶ	1後	32	2	●	▲		●			●	
●			社会実務	学生生活や社会人になる為と業界に向けての注意点を学ぶ	1後	32	2	●			●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	1後	32	2	●			●			●	
●			トリミング実習	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	1後	256	16				●	●		●	●
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	1後	32	2	●			●		●		
●			しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗れてアドバイスについて学ぶ	1後	34	2				●	●		●	●
合計			7 科目		448単位時間( 28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期ははじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	2前	34	2	●			●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	2前	34	2	●			●			●	
●			ショップ学	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	2前	34	2	●			●		●		
●			飼育学	犬の発達行動学等を学び動物に関わる法律について学ぶ	2前	34	2	●			●			●	
●			トリミング実習	1人、もしくは2人で1匹の実習犬を担当する。担当した実習犬のトリミング作業終了時間の短縮を目標とする。	2前	272	16				●	●	●	●	
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	2前	34	2	●			●		●		
●			ビジネス実務	自らの職業観や勤労観といった概念の形成を前提に、ビジネス常識および、基本的なコミュニケーション、情報の利活用など、将来、職業人として適応するために身につけておくべき知識を学ぶ	2前	34	2	●			●		●		
合計			7 科目			476単位時間 ( 28 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85% (96単位) 以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。 ・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。 ・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。 ・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。 ・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。 ・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。 ・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。 ・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科トリマー専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	2後	32	2	●			●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	2後	32	2	●			●			●	
●			ショップ学	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	2後	32	2	●			●		●		
●			飼育学	犬の発達行動学等を学び動物に関わる法律について学ぶ	2後	32	2	●			●			●	
●			卒業論文	ペット分野で学んだ中から絞り込み、自己課題を決め深く分析しまとめ上げる	2後	32	2	●			●		●		
●			トリミング実習	各犬種別のトリミング技術の向上と、「きれいに、丁寧に、短時間で」を常に意識して作業することを目的とする。	2後	256	16				●	●	●	●	
●			トリミング概論	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	2後	32	2	●			●		●		
合計			7 科目		448単位時間( 28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
北海道どうぶつ・医療専門学校	1989年12月28日	末吉 良任	〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2811																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人北海道安達学園	1989年11月28日	安達 保敏	〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
商業実務	商業実務専門課程	ペット学科 動物看護専攻	平成6年文部科学省告示第 八十四号	—																			
学科の目的	学内犬の飼育管理や様々な取り組みを通じて、「人間とペットがしあわせに共生できる社会」の実現に貢献できるペットの専門家を育成する。																						
認定年月日	2014年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2	年	昼間	2380時間	1450時間	66時間	864時間	0時間	0時間															
単位時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の 内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
120人の内数	30人	1人	4人	7人	11人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末考査素点・平常点・ 提出物類																		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで			卒業・進級 条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導、及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 業界イベントの参加・協力、ボランティア活動への参加  ■サークル活動: 無																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 石山通り動物病院、リンクス動物病院、ノア動物病院他  ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導  ■卒業生数 6 人 ■就職希望者数 5 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 83 % ■その他  (平成29年度卒業生に関する5月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>預言休険券業人試験</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>認定動物看護師</td> <td>②</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士	③	8	7	預言休険券業人試験	③	8	8	認定動物看護師	②	6	5
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
愛玩動物飼養管理士	③	8	7																				
預言休険券業人試験	③	8	8																				
認定動物看護師	②	6	5																				
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 5 % 平成29年5月1日時点において、在学者20名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者19名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的問題  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、授業料の分納制度等																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 給付者なし																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://www.ssb.ac.jp/pet/course/general-pets/">https://www.ssb.ac.jp/pet/course/general-pets/</a>																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット学科教育内容: 学内犬飼育管理から学ぶ、飼育の基本と人と動物との絆、犬とのコミュニケーション、社会貢献活動  
幅広い知識と、技術  
上記の教育内容を企業との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映する為、企業等の意見を十分に活かし改善・工夫を計っていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会では①就職実績など教育成果、②カリキュラム、③教育環境・教材など、について審議。教育効果検証の場として位置付け、社会に貢献できる人材を育成していくための継続的改善について意見交換を行う。教育編成委員会の審議結果を基に、学校担当が中心となってカリキュラムなどの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	①
森 浩子	藤野ペット霊園 緑の杜 営業部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	③
吉住 憲広	北海道どうぶつ・医療専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
安達 敏亮	北海道どうぶつ・医療専門学校	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数2回 毎年6月、12月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月22日 17:00～18:00
- 第2回 平成26年2月7日 17:00～18:00
- 第3回 平成26年10月3日 14:00～15:00
- 第4回 平成27年2月26日 13:00～14:00
- 第5回 平成27年11月6日 13:00～14:00
- 第6回 平成28年6月17日 13:00～14:00
- 第7回 平成29年6月10日 13:30～14:00
- 第8回 平成29年12月12日 13:30～14:00
- 第9回 平成30年6月28日 13:30～14:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

飼育管理実習などについて。増加傾向にある学生数、及びさらなる学習環境の向上を目指し、施設の充実と学内動物の飼育数を増やす必要があるのではないかと、との意見。それを受け施設のリニューアルを進め、順次飼育動物を増やすと同時に飼育環境のさらなる改善を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ(企業研修)や企業からの特別授業を通し、「現場の実践力と飼育管理力を備え、人と動物との絆を高める社会人の育成」に取り組んでいく

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

専門分野の企業・業界団体などから指導講師が参画して①教材選定・科目実施方法・評価方法の設計、②授業の実施、③学校と連携して学生の評価、を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗ってアドバイスについて学ぶ	テイネ警察犬訓練所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係															
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針															
教員規則の教員研修に基づき、教職員の業務に係わる必要な知識、技能、資質などの向上を図るため、年2回以上教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される研修を受ける機会を学園として認め、奨励する。															
(2)研修等の実績															
①専攻分野における実務に関する研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京研修1の実施(IFC東京国際主催 ドッグショー視察研修、ペットサロンの企業を視察研修)</li> <li>・東京研修2の実施(製菓、調理、ペットなどの専門学校を視察研修)</li> <li>・2017.12.25 臨床動物看護学(愛犬美容看護専門学校主催)に参加</li> <li>・2018.6.10 震災とペット救護活動(ソエティス・ジャパン株式会社主催)に参加</li> </ul>															
②指導力の修得・向上のための研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る H29.5月</li> <li>・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る H29.5月</li> <li>・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年3回) H29.7月、12月、H30.1月、7月</li> </ul>															
(3)研修等の計画															
①専攻分野における実務に関する研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市小動物獣医師会主催「心のバリアフリー・輝いて生きる」 H30.10月</li> <li>・北海道ペット事業協同組合「愛され顔の作り方、ペイジング講習/マイクロチップデモ」 H30.10月</li> </ul>															
②指導力の修得・向上のための研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修H30.12月</li> <li>・発達障害のある子を支えるおとなたち(北海道主催)H30.10月</li> </ul>															
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係															
(1)学校関係者評価の基本方針															
学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する															
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td>1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか</td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td>2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか</td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td>3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか</td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td>4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</td> </tr> <tr> <td>(5)学生支援</td> <td>5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか</td> </tr> <tr> <td>(6)教育環境</td> <td>6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか	(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか	(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか	(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか	(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目														
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか														
(2)学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか														
(3)教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導体制はあるか														
(4)学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか														
(5)学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか														
(6)教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか														

(7) 学生の受入れ募集	7-1 学生募集活動は、適正に行われているか 7-2 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3 入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2 個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	11-1 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくことで了承。  
職業実践専門課程が一般に認知されていないのではないかと意見が挙がった。職業実践専門課程が広く一般に浸透するよう学校として実績を上げ、情報発信していくこととした。  
ペット学科については、ボランティア活動を通じ、犬とのコミュニケーション、社会貢献活動を強化して行くことの意味を反映して行く。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社さきしだ Studio BACU CGIチーフディレクター	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
原 大介	ユアンワークス 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法: ホームページ 公表時期: 平成30年11月中)

[https://www.ssb.ac.jp/pet/wp-content/uploads/2016/09/P2015\\_SSB\\_20160301.pdf](https://www.ssb.ac.jp/pet/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SSB_20160301.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2) 各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5) 様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6) 学生の生活支援	・学生生活サポート
(7) 学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8) 学校の財務	・消費収支計算書
(9) 学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	・国際交流・連携
(11) その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供方法: ホームページ <https://www.ssb.ac.jp/pet/information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科動物看護専攻) 平成30年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●				愛玩動物飼養管理士資格対策	愛玩動物飼養管理士取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1前	34	2	●			●		●		
●				接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー&接遇マナーを学ぶ	1前	34	2	●	▲		●			●	
●				社会実務	学内での生活指導の他に、社会人として必要なルールやマナーと就職活動について学ぶ	1前	34	2	●			●		●		
●				しつけ基礎	犬との接し方や注意点の把握と、飼い主の相談に乗れてアドバイスについて学ぶ	1前	34	2				●	●	●	●	●
●				グルーミング学	犬の習性や生態を理解し、基本的なグルーミングの知識と目的・必要性を学ぶ	1前	34	2				●	●		●	
●				動物形態機能学	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する	1前	68	4	●				●			●
●				病原体・衛生管理	病原体になりうる微生物の感染予防法を理解し、動物の健康維持について学ぶ	1前	34	2	●				●			●
●				動物健康管理	健全な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法について理解し、個体に合った適正飼育に努めるよう飼主指導ができるよう学ぶ	1前	16	1	●				●		●	
●				動物栄養学	基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的知識と特別療法職の特性など個体に合った適切な食事管理についての知識を学ぶ	1前	12	1	●				●			●
●				公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を学ぶ	1前	34	2	●				●			●
●				動物看護学	チーム医療に基づいた専門職としての看護倫理、業務方針から、動物及び飼主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を身につける。	1前	16	1	●				●		●	
●				院内コミュニケーション	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応を身につける	1前	52	3	●	▲		●		●		
●				動物飼育実習Ⅰ・Ⅱ	基礎分野・専門基礎分野で学んだことと応用を实践し、問題解決能力や看護実践能力を身につけた人材を育成する/動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	1前	70	4				●	●	●		
●				動物看護実習Ⅰ・Ⅱ	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につける/動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	1前	34	2	●				●		●	
●				動物臨床検査学	検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす	1前	34	2	●				●			●
●				動物臨床検査学実習Ⅰ・Ⅱ	診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける/実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	1前	34	2	▲			●	●			●
合計				16 科目		574単位時間( 34 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付けられない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位数である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科動物看護専攻) 平成30年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●				愛玩動物飼養管理士資格対策	愛玩動物飼養管理士取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1後	32	2	●			●		●		
●				接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー&接遇マナーを学ぶ	1後	32	2	●	▲		●				●
●				社会実務	学生生活や社会人になる為と業界に向けての注意点を学ぶ	1後	32	2	●			●		●		
●				動物形態機能学	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する	1後	64	4	●			●				●
●				動物疾病看護学	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす	1後	64	4	●			●				●
●				動物栄養学	基礎栄養素及び主に犬猫に必要な栄養素、ペットフードの基本的知識と特別療法職の特性など個体に合った適切な食事管理についての知識を学ぶ	1後	64	4	●			●				●
●				動物人間関係学	人と動物の絆の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し、人と動物の共生に寄与する	1後	32	2	●	▲		●				●
●				動物行動学	主に犬猫の発生活動、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、看護と飼主指導に活かす	1後	32	2				●	●			●
●				クライアントエデュケーション	人と動物のより良い共生を目指し、専門職の観点から飼主指導に活かせるよう学ぶ	1後	32	2	●			●		●		
●				院内コミュニケーション	動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話応対を身につける	1後	24	2	●	▲		●		●		
●				動物飼育実習Ⅰ・Ⅱ	基礎分野・専門基礎分野で学んだことと応用を実践し、問題解決能力や看護実践能力を身につけた人材を育成する/動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	1後	65	4				●	●	●		
●				動物看護実習Ⅰ・Ⅱ	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察及び看護法に関する基本的手技を身につける/動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	1後	64	4	●			●		●		
●				動物臨床検査学実習Ⅰ・Ⅱ	診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける/実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	1後	64	4	▲			●	●			●
合計					14 科目	633単位時間( 40 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期ははじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付けると義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業生となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位数である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科動物看護専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生生活や社会人になる為と業界に向けての注意点を学ぶ	2前	34	2	●			●		●		
●			動物形態機能学	主に犬猫を中心にその他ウサギ、鳥類などの動物の体の構造、筋骨格系・呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解する	2前	18	1	●			●				●
●			動物繁殖学	主に犬猫の繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊、去勢の知識を身につけ助産と性別疾病予防について飼主指導に活かせるよう学ぶ	2前	16	1	●			●				●
●			動物病理学	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する	2前	34	2	●			●				●
●			動物疾病看護学	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす	2前	68	4	●			●				●
●			動物薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく取り扱えることを学ぶ	2前	34	2	●			●				●
●			動物感染症学	主に犬猫に感染する内部寄生虫、外部寄生虫及び微生物について理解し、予防と看護に活かす	2前	68	4	●			●				●
●			臨床動物管理学	各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を考察する	2前	68	4	●			●				
●			動物入院管理	個体別及び疾患別に応じた看護力を身につけ飼主指導に活かせるよう学ぶ	2前	34	2	●			●				●
●			動物看護実習Ⅰ・Ⅱ	動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	2前	68	4	▲			●	●		●	
●			動物臨床検査学実習Ⅰ・Ⅱ	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につける。また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける	2前	68	4	▲			●	●			●
●			外科動物看護実習Ⅰ・Ⅱ	基本的な外科手術の流れを理解し、手術準備、麻酔モニタリング、手術助手及び周術期の動物管理を身につける	2前	68	4	▲			●	●		●	
			合計		12 科目						574単位時間(	32	単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。 ・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。 ・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業生となる。 ・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。 ・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。 ・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位数である。 ・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。 ・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	17週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
  - 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科動物看護専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生生活や社会人になる為と業界に向けての注意点を学ぶ	2後	32	2	●			●		●		
●			資格対策	動物看護師認定試験取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	2前	64	4	●			●			●	
●			卒業論文	ペット分野で学んだ中から絞り込み、自己課題を決め深く分析しまとめ上げる	2後	64	4	●			●		●		
●			動物疾病看護学	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。さらに主な疾患の機序及び症状、検査法、治療法を理解し看護に活かす	2前	18	1	●			●				●
●			動物医療関連法規	主に獣医療現場及び動物関連法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を学ぶ	2後	32	2	●			●				●
●			動物福祉論	生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を身につける	2後	32	2	●			●		●		
●			飼養管理学	実験動物、産業動物、展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点から人と動物の共生について学ぶ	2後	64	4	●			●				
●			臨床動物管理学	各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を考察する	2後	32	2	●			●		●		
●			幼齢動物・高齢動物管理	主に犬猫の新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かす。また高齢動物の管理、介護を理解し飼い主に寄り添った在宅看護を学ぶ	2後	32	2	●			●		●		
●			動物看護実習Ⅰ・Ⅱ	動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	2後	64	4	▲			●	●	●		
●			動物臨床検査学実習Ⅰ・Ⅱ	動物臨床検査学実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	2後	64	4	▲			●	●			●
●			外科動物看護実習Ⅱ	外科動物看護実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける	2後	64	4	▲			●	●			●
●			救急救命対応	エマージェンシーの見極めとトリアージを理解し救急救命にいかす	2後	16	1	●	●		●				●
合計				13 科目							574単位時間(	34	単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業生となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位数である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																		
北海道どうぶつ・医療専門学校		1989年12月28日	末吉 良任		〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-272-2811																		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																		
学校法人北海道安達学園		1989年11月28日	安達 保敏		〒060-0001 北海道札幌市中央区大通西9丁目3-12 (電話) 011-205-7600																		
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																	
商業実務	商業実務専門課程	ペット学科 総合ペット専攻			平成6年文部科学省告示第八十四号	-																	
学科の目的	学内犬の飼育管理や様々な取り組みを通じて、「人間とペットがしあわせに共生できる社会」の実現に貢献できるペットの専門家を育成する。																						
認定年月日	2014年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1848時間	626時間	66時間	1156時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
120人の内数		37人	0人	6人	5人	11人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末考査・出席率・授業態度																		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:7月下旬から8月下旬まで ■冬季:12月下旬から1月下旬まで ■学年末:2月下旬から4月初旬まで			卒業・進級条件	・出席率90%以上 ・単位修得率85%以上 ・卒業制作の完成 ・学費の完納																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による生活指導、及び保護者との連携強化を行う			課外活動	■課外活動の種類 業界イベントの参加・協力、ボランティア活動への参加  ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) ジョイフルエーカー、ペットランド、ティネドッグスクール他 ■就職指導内容 ホームルームの授業などで、就職に対する意識づけ、業界就職に対する正しい認識を指導 ■卒業者数 12 人 ■就職希望者数 9 人 ■就職者数 9 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 75 % ■その他  (平成29年度卒業生に関する5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士</td> <td>③</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>実習体験券未入試動物愛護社会化検定</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士	③	16	16	実習体験券未入試動物愛護社会化検定	③	13	12		③	3	3
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
愛玩動物飼養管理士	③	16	16																				
実習体験券未入試動物愛護社会化検定	③	13	12																				
	③	3	3																				
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成29年5月1日時点において、在学者32名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者28名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的問題、進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個別面談の実施、教職員同士の情報共有、授業料の分納制度等			■中退率 12.5 %																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 奨学生制度(試験奨学生、チャレンジ奨学生、高校既卒者・社会人奨学生)、AO特待生入学、縁故優遇制度、語学優遇制度、在校生表彰制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 給付者なし																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.ssb.ac.jp/pet/course/general-pets/">https://www.ssb.ac.jp/pet/course/general-pets/</a>																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

## 2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

## 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット学科教育内容:学内犬飼育管理から学ぶ、飼育の基本と人と動物との絆  
 犬とのコミュニケーション、社会貢献活動  
 幅広い知識と、技術  
 上記の教育内容を企業との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映する為、企業等の意見を十分に活かし改善・工夫を計っていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会では①就職実績など教育成果、②カリキュラム、③教育環境・教材など、について審議。教育効果検証の場として位置付け、社会に貢献できる人材を育成していくための継続的改善について意見交換を行う。教育編成委員会の審議結果を基に、学校担当が中心となってカリキュラムなどの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	①
森 浩子	藤野ペット霊園 緑の杜 営業部長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	③
吉住 憲広	北海道どうぶつ・医療専門学校 副校長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	
安達 敏亮	北海道どうぶつ・医療専門学校	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数2回 毎年6月、12月(編成委員の予定等により開催時期変更あり)

(開催日時)

- 第1回 平成25年11月22日 17:00～18:00
- 第2回 平成26年2月7日 17:00～18:00
- 第3回 平成26年10月3日 14:00～15:00
- 第4回 平成27年2月26日 13:00～14:00
- 第5回 平成27年11月6日 13:00～14:00
- 第6回 平成28年6月17日 13:00～14:00
- 第7回 平成29年6月10日 13:30～14:00
- 第8回 平成29年12月12日 13:30～14:00
- 第9回 平成30年6月28日 13:30～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

飼育管理実習などについて。増加傾向にある学生数、及びさらなる学習環境の向上を目指し、施設の充実と学内動物の飼育数を増やす必要があるのではないか、との意見。それを受け施設のリニューアルを進め、順次飼育動物を増やすと同時に飼育環境のさらなる改善を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ(企業研修)や企業からの特別授業を通し、「現場の実践力と飼育管理力を備え、人と動物との絆を高める社会人の育成」に取り組んでいく

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

専門分野の企業・業界団体などから指導講師が参画して①教材選定・科目実施方法・評価方法の設計、②授業の実施、③学校と連携して学生の評価、を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
しつけ・訓練	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を実習授業を通じて習得する	テイネ警察犬訓練所
訓練	犬とのコミュニケーションに重点をおき、指示とアジリティ競技について学ぶ	テイネ警察犬訓練所

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係															
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針															
教員規則の教員研修に基づき、教職員の業務に係わる必要な知識、技能、資質などの向上を図るため、年2回以上教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校外で催される研修を受ける機会を学園として認め、奨励する。															
(2) 研修等の実績															
① 専攻分野における実務に関する研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京研修1の実施(IFC東京インターナショナル主催 ドッグショー視察研修、ペットサロンの企業を視察研修)</li> <li>・東京研修2の実施(製菓、調理、ペットなどの専門学校を視察研修)</li> <li>・2018.6.10 ゴエティス・ジャパン(株)主催「これからの動物病院の安定経営のために」の講演参加</li> <li>・2018.8.7 基礎学力向上で退学者を減少させる(ベネッセグループ主催)に参加</li> </ul>															
② 指導力の修得・向上のための研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブカフェ北海道による、テーマ/新卒採用活動の戦略と学生支援のスタンス(エントリーシートの重要性)を通じ、新卒採用・学生支援などの知識を身に付け就職指導力等の向上を図る H29.5月</li> <li>・マイナビによる、テーマ/One to One アプローチを通じ、OnetoOneの接し方など知識を身に付け指導力等の向上を図る H29.5月</li> <li>・北海道私立専修学校各種学校主催の教員研修に参加(年3回) H29.7月、12月、H30.1月、7月</li> </ul>															
(3) 研修等の計画															
① 専攻分野における実務に関する研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市小動物獣医師会主催「心のバリアフリー・輝いて生きる」 H30.10月</li> <li>・北海道ペット事業協同組合「愛され顔の作り方、ペイジング講習/マイクロチップデモ」 H30.10月</li> </ul>															
② 指導力の修得・向上のための研修等															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会主催の教員研修H30.12月</li> <li>・発達障害のある子を支えるおとなたち(北海道主催)H30.10月</li> </ul>															
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係															
(1) 学校関係者評価の基本方針															
学校関係者評価委員会は学校法人北海道安達学園に位置付け、本法人の各学校に関係の深い企業等関連の方々を中心に、自己評価を基にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく法人全体に係る学校関係者評価を実施する															
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td>1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか</td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td>2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td>3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか</td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td>4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td>5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか</td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td>6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか	(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか	(3) 教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか	(4) 学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(5) 学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか	(6) 教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目														
(1) 教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2学校の特色は適正か 1-3学校の将来構想を抱いているか														
(2) 学校運営	2-1運営方針は定められているか 2-2事業計画は定められているか 2-3運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-4人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-5意思決定システムは確立されているか 2-6情報システム化等による業務の効率化が図られているか														
(3) 教育活動	3-1各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-2修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-3カリキュラムは体系的に編成されているか 3-4学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか 3-5キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 3-6授業評価の実施・評価体制はあるか 3-7育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-8教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-9成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-10資格取得の指導體制はあるか														
(4) 学修成果	4-1就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている 4-2資格取得率の向上が図られているか 4-3退学率の低減が図られているか 4-4卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか														
(5) 学生支援	5-1就職関する体制は整備されているか 5-2学生相談に関する体制は整備されているか 5-3学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-4学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-5課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-6学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-7保護者と適切に連携しているか 5-8卒業生への支援体制はあるか														
(6) 教育環境	6-1施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-2学科実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-3防災に対する体制は整備されているか														

(7)学生の受入れ募集	7-1学生募集活動は、適正に行われているか 7-2学生募集において教育成果は正確に伝えられているか 7-3入学専攻は適性かつ公平な基準に基づき行われているか 7-4学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	8-1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-3財務について会計監査が適正に行われているか 8-4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	9-1法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-2個人情報に監視、その保護のための対策がとられているか 9-3自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-4自己点検・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	10-1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11)国際交流	11-1グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会実施の意見として、自己評価に基づくこと了承。  
職業実践専門課程が一般に認知されていないのではないかと意見が挙がった。職業実践専門課程が広く一般に浸透するよう学校として実績を上げ、情報発信していくこととした。  
ペット学科については、ボランティア活動を通じ、犬とのコミュニケーション、社会貢献活動を強化して行くことの意味を反映して行く。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
菅原 耕治	北海道デザイン協議会 会長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
松倉 大樹	株式会社さした Studio BACU CGIチーフディレクター	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
原 大介	ユアンワークス 代表	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	企業等委員
本間 裕也	北海道犬ぞり連盟 事務局長	平成30年4月1日～平成31年3月31日 1年更新	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(公表方法:ホームページ 公表時期:平成30年11月中)

[https://www.ssb.ac.jp/pet/wp-content/uploads/2016/09/P2015\\_SSB\\_20160301.pdf](https://www.ssb.ac.jp/pet/wp-content/uploads/2016/09/P2015_SSB_20160301.pdf)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が設定する情報項目に基づき、学校関係者へ幅広く情報を提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・基本情報 ・開校の目的 ・沿革 ・教育方針
(2)各学科等の教育	・定員 ・各学科 教育理念・教育方針・教育内容(カリキュラム・目指す資格・行事)
(3)教職員	・教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み ・実習・実技、企業連携等の紹介(インターンシップ等) ・就職支援の取り組み(キャリアセンター)
(5)様々な教育活動・教育環境	・校外実習 ・校外見学 ・学校設備状況 ・サークル活動等 ・海外研修
(6)学生の生活支援	・学生生活サポート
(7)学生納付金・修学支援	・学費 ・学費サポートシステム
(8)学校の財務	・消費収支計算書
(9)学校評価	・自己点検自己評価 ・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	・国際交流・連携
(11)その他	・災害時非常時緊急時の対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供方法は、ホームページ <https://www.ssb.ac.jp/pet/information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1前	34	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー&接遇マナーを学ぶ	1前	34	2	●	▲		●			●	
●			社会実務	学内での生活指導の他に、社会人として必要なルールやマナーと就職活動について学ぶ	1前	34	2		●		●		●		
●			犬種学、動物行動学	犬猫の進化や生態・行動様式、犬猫種や飼育の基礎を学ぶ	1前	34	2	●			●			●	
●			トリミング実習	グルーミング作業工程での熟練と、トリミング犬種別のスタイルの違い、足回りのカットなどのシザーリングの初歩から学ぶ	1前	136	8			●	●		●	●	
●			しつけ・訓練	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を実習授業を通じて習得する	1前	136	8			●	●	●	●	●	●
●			しつけ概論	犬の性格・能力・習慣を理解し、犬とのコミュニケーションの取り方を理論的に学ぶ	1前	34	2	●			●		●	●	
●			飼育管理学	動物の飼育管理について総合的に学ぶ	1前	34	2	●			●		●		
合計			8 科目		476単位時間( 28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位数である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			資格試験対策	愛玩動物飼養管理士、動物愛護社会化検定取得へ向けての集中講義と過去の出題傾向を知る練習課題により資格取得を目指す	1後	32	2	●			●		●		
●			接遇マナー	社会人として、またペット業界に従事する者として必要な社会人マナー&接遇マナーを学ぶ	1後	32	2	●	▲		●			●	
●			社会実務	学生生活や社会人になる為と業界に向けての注意点を学ぶ	1後	32	2	●			●		●		
●			犬種学、動物行動学	犬猫の進化や生態・行動様式、犬猫種や飼育の基礎を学ぶ	1後	34	2	●			●			●	
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	1後	32	2	●			●			●	
●			トリミング実習	犬種別による全体のカットを学びペットショップ業務に欠かせない掃除を掃除当番制を取り入れることにより、習慣づけていく。	1後	128	8				●	●		●	●
●			しつけ・訓練	犬とのコミュニケーションに重点をおき、オビディエンスについて学ぶ	1後	128	8				●	●		●	●
●			飼育管理学	動物の飼育管理について総合的に学ぶ	1後	32	2	●			●		●		
合計			8 科目		448単位時間( 28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位数である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	2前	34	2	●			●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	2前	34	2	●			●			●	
●			ショップ学	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	2前	34	2	●			●		●		
●			飼育学	犬の発達行動学等を学び動物に関わる法律について学ぶ	2前	34	2	●			●			●	
●			トリミング実習	1人、もしくは2人で1匹の実習犬を担当する。担当した実習犬のトリミング作業終了時間の短縮を目標とする。	2前	136	8			●	●		●	●	
●			訓練	犬とのコミュニケーションに重点をおき、指示とアジリティ競技について学ぶ	2前	136	8			●	●	●	●	●	●
●			動物看護実習	動物看護の基礎と、医療施設現場をイメージして看護師とはを学ぶ	2前	68	4			●	●		●		
合計			7 科目		476単位時間( 28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位数である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット学科総合ペット専攻) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
●			社会実務	学生と社会人の違いを知り、自己分析から自分自身を見直し将来への目標設定を行う	2後	32	2	●			●		●		
●			動物健康管理学	動物の病気や応急処置、ワクチンや感染症など健康な状態を維持するための基本知識を学ぶ	2後	32	2	●			●			●	
●			ショップ学	ペットショップ勤務において必要な基礎知識と接客対応を学び、今後の就職に向けての意識を高める。	2後	32	2	●			●		●		
●			飼育学	犬の発達行動学等を学び動物に関わる法律について学ぶ	2後	32	2	●			●			●	
●			卒業論文	ペット分野で学んだ中から絞り込み、自己課題を決め深く分析しまとめ上げる	2後	32	2	●			●		●		
●			トリミング実習	各犬種別のトリミング技術の向上と、「きれいに、丁寧に、短時間で」を常に意識して作業することを目的とする。	2後	128	8			●	●		●	●	
●			訓練	犬とのコミュニケーションに重点をおいた授業とする	2後	64	4			●	●		●		●
●			動物看護実習	動物看護の基礎と、医療施設現場をイメージして看護師とはを学ぶ	2後	64	4			●	●		●		
●			しつけ訓練	ドッグトレーニング技術、飼い主からのしつけ相談の対応ができる知識を学ぶ	2後	32	2	▲		●	●		●	●	
合計			9 科目		448単位時間( 28 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業の要件 ①必要単位数の補修 全取得可能単位の85%(96単位)以上②出席について 1年次からの出席累計が規定時数以上であること③卒業課題の提出 学科により指定される卒業論文及び卒業制作の審査に合格すること④学費などの完納 本校所定の学費などを納入すること 履修について ・履修科目は、必須科目、選択科目、特別科目がある。必須科目、選択科目は履修を義務付けられている科目で、学期はじめのオリエンテーション時に発表する。特別授業は履修を義務付ける場合と義務付けない場合がある、一定の期間実施する集中授業である。特別授業の履修方法はその都度発表する。・2年間で履修すべき単位数と出席時数は定められており、それらが不足した場合は卒業保留となる。・卒業保留者には定められた期間に実施する補習授業、再試験などを行い、再単位取得の機会を与える。それらに合格し、必修単位数以上になると正規卒業者となる。・出席不足の恐れがある場合、夏季休暇、冬季休暇、春季休暇などに補習授業を実施する。・卒業制作は必修課題で提出の義務があり、所定の審査に合格する必要がある。・卒業制作は、学習成果を発表する重要な課題なので高単位である。・補習授業、追試験、再試験などは、認定されると授業単位数と同じになる。・補習授業、再試験は事前に指定の料金を徴収する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。